

一般的な債券運用のリスクとデメリット

信用リスク

債券は利子や償還金の支払期日が約束されていますが、この約束が守られない場合のことで、予定している収益が得られないこととなります。

途中換金リスク

発行体の都合により満期償還前に額面金額が返還（償還）される場合があります。この場合、満期までに受け取れる利息が受け取れなくなります。

価格変動リスク

債券を途中で売却する場合はその時の時価になり、その価格は日々変動しますので売却により損益が発生します。購入価格より低い場合は損失となります。

流動性リスク

債券を売却しようとしても思うような価格で売却できない、買い手がつかない場合があります。

デメリット

流動性リスクと関連していますが、定期預金等で運用している場合は解約することにより必要な額を現金化することができますが、一般的に債券での運用の場合は、売却により現金化することとなります。その場合、売却時の金利状況等によりに希望する価格での売却が難しくなる場合も考えられます。

これらのリスクやデメリットを踏まえたうえで「資金管理方針」に基づき、年度ごとの「資金管理計画」を策定し、できるだけリスクを低くするため、発行体（事業者）や償還年限を分散して購入し、償還日までの保有を原則としています。